

## 緑内障道場

### 診断・治療の一手ご指南

木内良明 編

書籍タイトルが面白い。また、随分と変わった形式としたものである。そんな思いを抱きながら通読したところ、編集の木内良明教授（広島大）の采配が随所ににじみ出ていることに気が付いた。良書である。

内容を簡単に紹介すると、緑内障の診断や管理に関する独立した24件の症例が取りあげられている。症例はよく練られていて、例えば、「本当に正常眼圧緑内障でしょうか？」とか「認知症患者への緑内障診療はどのように進めればよいのでしょうか？」など、日常診療でよく悩む状況が設定されている。症例ごとに、必要にして十分な症例呈示がなされ、それに対しての基本お二人の緑内障専門の先生の丁寧なコメントが並び、その後の経過へと続き、最後に木内師範のまとめとなる。

いずれの症例も日常的なものであるだけに、示唆に富むコメントを含んだ24の症例検討が実臨床に役立つことは間違いない。また、私にはコメントされた先生方の思考回路がよく理解でき、読後感の良い読み物であった。面白かったのは、一部の症例においてお二人のコメントが全く異なる見解を出していたことである。どこであるかは読んでのお楽しみということにしておくが、それだけ緑内障が奥深いということだろう。

時間の取れない方は本書を飛ばし読みするかもしれ

ないが、それは推奨しない。緑内障の師範をめざすのであれば、最初にある症例呈示の部分で、多数添付されている所見と共にじっくり読んでほしい。10分くらいかけて症例を理解し、自分ならどうするか回答を用意してからコメント以下を読むようにしたい。そうすると、よく理解でき、また、序文にある「1. 明るく楽しく緑内障を学ぶべし、2. 道場内は建前ではなく本音で語るべし、3. 患者から学ぶ姿勢を大切にすべし」の3つの掟にもかかなうことになる。

しいて欠点を挙げるとすると、眼底や隅角図の中に小さくて所見が読みにくいものが少しあるということであろうか。また、緑内障診療の経験がごく少ないとこの本の機微に触れることは難しいと思われる。

まとめると、本書は緑内障上級者になるために格好の書籍ということになる。本書にあるような症例を1例1例理解し、またそのバリエーションを実臨床で診ていくことが、緑内障師範への近道である。熟読に足る書籍として本書を推薦したい。

岐阜大教授・眼科学  
山本哲也

B5・頁288 2019年4月  
定価：本体9,000円＋税  
[ISBN978-4-260-03840-9] 医学書院刊